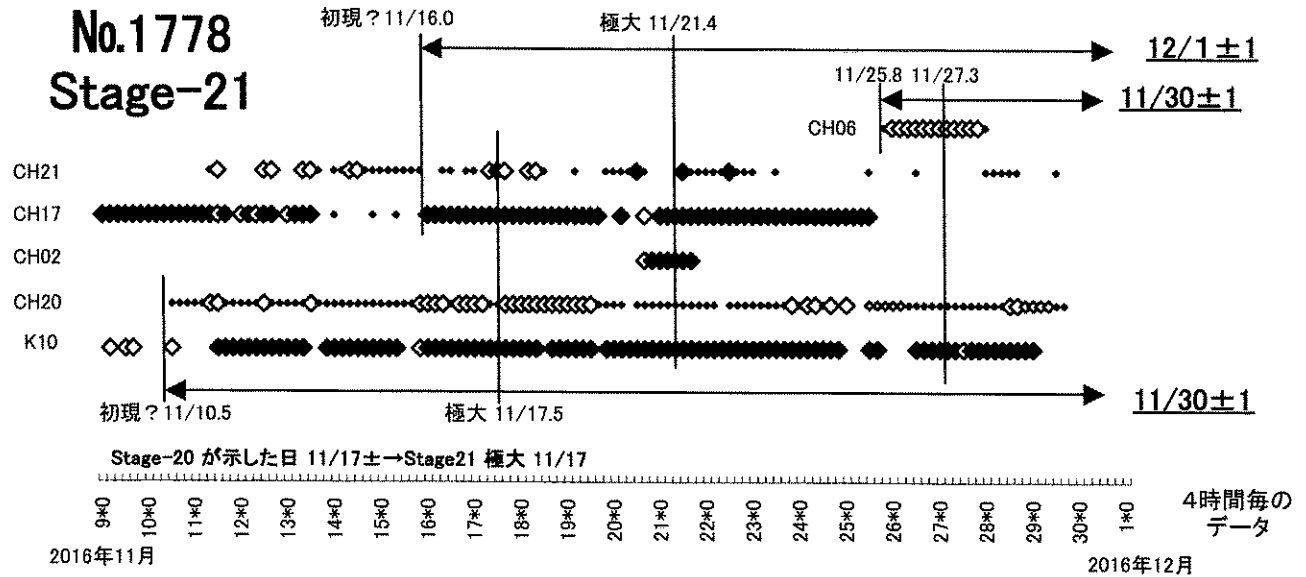


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆現況報告 CH20微弱前兆以外 全て終息  
CH20も極めて微弱 → 12月01日±1 対応地震発生の可能性有



2008年07月より8年5ヶ月継続の観測歴上最長継続特殊前兆 No.1778は現在第21行-ヲ認識

11月27日に極大認識される八ヶ岳南麓のCH06も11月28日以降前兆の再出現はありません。また顕著に継続した高知観測点のK10も11月29日日本午前02時頃に終息し、15時間以上静穏基線を記録しております。CH21も現在静穏基線。CH20のみが(ほとんど静穏基線ですが)微弱な前兆が見えます。

第21行-ヲは11月30日±を示す動向認識でした。仮に11月30日午前発生の場合は、11月27日極大に対する前兆終息は、本日11月29日の午後が計算されておりました。只今現在17時30分、この時点でCH20のみ微弱な前兆が残っています。ほぼ静穏基線に近いですが、僅かに基線が不安定です。他は前兆無し。

12月01日午前発生となる場合は、明日の11月30日昼前にはCH

20の前兆も終息する筈であることが計算できます。

現状、顕著な新規前兆や新たに継続出現した前兆も無いことから、第21が示す11月30日±(現状12月01日±が考え易い)に次の極大が出現する可能性は考えられません。残る可能性は二つで、以下が考えられます。

- ①11月30日or12月01日に新規前兆が出現する可能性
- ②12月01日(誤差含め12月02日迄) 対応地震発生の可能性

2008年07月初旬から出現したNo.1778前兆は、第02行-ヲと第17行-ヲの2回、前行-ヲが示した日に新規極大ではなく、新規前兆初現が出現した経緯があります。②の対応地震発生の可能性の場合は、前兆の完全終息の可能性が示唆されます。微弱に残るCH20の基線が静穏化するか注意深く観測中です。誤差内で明日発生の可能性も完全否定はできませんので、12月01日± 推定。

- ◆推定領域：右図点線領域内付近=大枠推定領域  
太線領域内付近=可能性考え易い推定領域  
※岐阜県～福井県(石川県南部と滋賀県北部含む)
- ◆推定規模：M7.8 ± 0.5
- ◆推定時期：11月30日前兆終息の場合は下記  
現状考えやすい推定時期=12月1日±1日  
(※12月01日時点で前兆継続の場合は再考し続報)
- ◇推定地震種：震源深さ30km以浅の日本列島地殻地震
- ◇推定発生時刻：午前9時±1(又は午後6時±3)  
(前震発生の場合は無効)

※解析間違いで地震推定内容が実際と異なる場合はお詫ひ申し上げます。